



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第50号 平成25年10月22日発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

かえで支援学校相談・支援部通信「フレンズ」第50号の発行となりました。
これからも、センター的機能を果たし、
地域の特別支援教育の発展に向けてがんばっていきます!



フレンズ50号に寄せて

「行きたい学校 行かせたい学校 連携したい学校」
の一層の推進

かえで支援学校は、平成13年度に開校し、今年で13年目を迎えています。平成19年度に特別支援教育が本格的にスタートしましたが、本県では、それ以

前から各県立特別支援学校に相談支援や地域支援を担当するコーディネーターを独自に養成し、公立小中学校をはじめとする地域の学校や関係者への相談支援や教育相談に取り組んできました。本校においても、開校以来、地域の特別支援教育のセンター校としての役割を担ってきました。相談・支援通信「フレンズ」は開校5年目から、「連携したい学校」として、地域・関係者などに発信し、50回目を迎えました。

かえで支援学校は、「子どもたちが幸せな人生を送るために」とした学校教育目標、「行きたい学校 行かせたい学校 連携したい学校」をキーワードとした学校運営方針に基づいて教育活動に取り組んでいます。また、特別支援教育がスタートして6年が経過した中、「特別支援教育の理念」が形骸化することが無いように教職員には「継承と創造の両面の専門性」の意識を持って教育活動に取り組み、全ての教職員がセンター的機能を担えるようにと働きかけています。

本校の校歌は、みなさんご存じのとおり「フレンズ」で、相談支援通信の名前の由来でもあります。校歌の作詞作曲者、杉本竜一先生は開校以来、一人でも多くの方に歌っていただくよう「フレンズ交流」を推奨していただけてきました。先頃、山梨日日新聞に「校歌フレンズ 全国発信」という記事を掲載していただきました。「友だちっていいもんだな みんなで手をつなぎあえる 生きてるって素敵だね…」

校歌「フレンズ」を通じた交流の広がりとともに、本校のセンター的機能が一層充実し、特別な支援を必要とする全ての子どもたちとその保護者、指導・支援に当たっていただいている関係者に豊かな教育と生活を広げる契機となれば幸いに思います。

これからも、特別支援教育のセンター的な学校として本校の教育力を地域の資源として活用していただき、期待に応えられる学校となっていけるように、皆様とともに歩み成長していきたいとします。どうぞよろしくお願いいたします。

校長 久保 和也

平成25年度前期（4月～9月）センター的機能実績報告

◎オープンスクール・夏休み授業体験会関係

○本校舎オープンスクール	206名	＜前年比＋30名＞
＜小中学部＞	127名	（園児児童・保護者・ 通園施設職員・担任等）
＜高等部＞	79名	（生徒・保護者・担任等）
○分教室オープンスクール	92名	＜前年比－47名＞ （生徒・保護者・担任等）
○夏休み授業体験会	154名	＜前年比＋13名＞ （幼児児童生徒・保護者・担任等）
＊体験者64名＜年長：18 小6：18 中3：27＞		

今年度は、より参加者のニーズに応じられるように小中と高、分教室と3回に分けてオープンスクールを行いました。

昨年度は、分教室開設1年目ということで、教育委員会、福祉事務所等の方の参加がありましたが、今年度は入学希望者が中心だったため、参加者が減っています。

幼児の授業体験は昨年の2倍以上の体験者でした。

◎教育相談 86回 ＜前年比＋3回＞

○学校見学・相談	8回	（幼保2小2中2高2）	＊転学・入学関係6
○来校相談	46回	（幼保12小11中23）	＊転学・入学関係46
○電話・メール相談	8回	（幼保3小1中3高1）	
○プレスクール	9回	（中9名）	
○幼児の個別課題学習体験	15回	（年長児5名年少児2名）	



◎訪問相談・支援 34回（80名） ＜前年比－1回 ＋5名＞ ＊人数はのべ人数

○甲府市特別支援教育専門家チーム巡回相談	2回	（小学校2校2名）
○特別支援教育専門家チーム巡回相談	1回	（保育園1園1名）＜前年比－8回＞
○訪問相談・支援	31回	＜前年比＋7回＞
＜内訳＞ 幼保12回（3園 48名）		
小12回（11校 19名）		
＜通常の学級10名支援学級9名＞		
中7回（5校 16名）		
＜通常の学級3名支援学級13名＞		
高0回		

専門家チームの巡回相談のシステム変更のため、前期は訪問相談として行うことが多かったです。

中学校の支援学級への訪問が増えました。幼稚園保育園は同一の園で複数の園児への支援の依頼が多かったです。

◎研修支援 17回（前年比＋2回）

○校内研究会・研修会のサポート、講師	4回	（小学校3中学校1）
○連携機関関係研修会の講師	5回	（病院2保育園関係3）
○教育関係諸団体のサポート、講師	5回	（支援学級研究会等）
○かえで合同学習会＜相談支援部、研究部主催＞	3回	（のべ4名）

発達障害に関する研修の依頼が多いです。病院では、リハビリに通う幼児の保護者の向けに就学システムの説明をしました。



◎連携・情報提供 13回（前年比＋2回）

○中部地区特別支援連携協議会関係	4回
（協議会開催1回 甲府市連携協議会0回 甲州市ネットワーク会議1回 笛吹市サポート強化事業2回）	
○甲府市地域自立支援協議会関係	
○甲州市特別支援教育推進協議会	3回
○笛吹市自立支援協議会児童部会	1回
○相談・支援通信「フレンズ」278箇所	2回
本校保護者版「フレンズ」	2回
○掲示板の活用・HP更新（随時）	1回

知能検査実施にかかわる研修を受けたコーディネーターが、学校で決めた学年の児童生徒に検査を行い、その結果を分析して担任に伝え、指導方針や指導内容、方法等の参考にしてもらっています。

◎校内支援 26名

○知能検査実施	小…10名	中…7名	高（本）…10名	高（分）…2名
---------	-------	------	----------	---------

★「フレンズ」のバックナンバーを、ぜひHPでご覧ください。

◆◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆



山梨県立かえで支援学校
相談・支援部（飯嶋）

かえで支援学校

検索

甲府市東光寺2-25-1(〒400-0807)
TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356
URL <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>
E-Mail sodan@kaedey.kai.ed.jp
（相談・支援部専用アドレス）



第13回かえで祭

*在校生の日ごろの学習の成果を御覧いただくことができます。

また園や小中学校の先生方は、卒園児・卒業生の活躍してる姿を是非見に来てください。

～テーマ～

『 ☆キラキラ輝け☆青春のかえで祭！！ 』

～ダンス～

『 Joy！！ 』 by SMAP



日 時：平成25年11月23日（土）24日（日）

場 所：山梨県立かえで支援学校本校 *分教室では実施しません。

内 容：

<23日（土）>

9:30 開祭式

9:55 小学部学部発表 中ブロック（3,4年）「プレーメンにいこう！」



低ブロック（1,2年）「おいらは はらぺこ あおむしだ〜♪」

高ブロック（5,6年）「わんぱく☆たんけんたい」

10:55 中学部学部発表 「つたえよう 大切なこと〜生き物・自然・世界〜」

13:00 お祭り広場（PTA模擬店・中学部生徒の製品販売・ゲーム屋さん等）

<24日（土）>

9:30 高等部学部発表 1年生（本校）「ライオンキング」

1年生（分教室）「カラフル」

2年生（本校）「イチバン〜私たちが輝けるとき〜」

2年生（分教室）「Mr. Xからの予告状」

3年生「西遊記〜Road of Tenjiku〜」

13:00 お祭り広場（PTA模擬店・高等部生徒の製品販売等）

14:30 閉祭式



*両日とも、9:30〜14:20に児童生徒の図工や美術等の作品展示も御覧いただくことができます。

Information

「第8回かえで支援学校作品展」開催

期 間：平成25年12月10日（火）〜26日（木）

場 所：甲府市立図書館1階 展示室

☆絵画、版画、工作、工芸、陶芸等の児童生徒の作品を
展示します。見に来てください。



かえで支援学校高等部に入学するには・・

＊再度入学の手続きをご確認下さい。

高等部入学までの流れ

学校選び（見学・相談・体験等）

＊願書提出のための相談は、本人・保護者・学校で揃って、12月末までに必ず受けてください。

また、提出までに、保護者と生徒本人両者が本校と分教室の両方を見学してください。

★不登校傾向・重複障害・療育手帳未取得・集団授業を受けていない等の生徒は、12月では間に合いません。すぐに相談の予約を入れてください。

療育手帳を取得していない生徒は
総合教育センターにて諸検査実施

説明会の申し込み締め切りは**10月31日**です。詳しいことや申込用紙は、本校ホームページにアップしてありますので、ご覧ください。

入学者選抜事務説明会：11月9日（土）10時～11時30分

＊保護者と学校が出席してください。学校への事務的な説明会は今回限りです。

願書等の**出願書類はこの説明会で保護者に直接手渡し**いたします。

中学校経由ではお渡ししませんので、必ず保護者も出席してください。

願書提出＜平成26年1月27日（月）～1月31日（金）＞

＊午前9時～午後4時。最終日は午前みの受付。提出はお早めに！

入学者選抜検査＜平成26年3月6日（木）＞

＊午前8時30分～12時。＜国語・数学・面接検査・生活動作検査＞

入学許可予定者発表＜平成26年3月13日（木）：11時＞

入学説明会＜平成26年3月17日（月）＞

訪問支援の依頼手順

★幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校へ訪問して、保護者・先生方からの相談に応じています。

①園・校内で校内委員会及びケース会議の実施

（具体的な指導や支援の内容や役割を決めたり、決定事項の実行後の評価等を行ったりして下さい。）

②園・校内で外部支援の必要性の検討（どのような内容を依頼するのか、焦点化して下さい。）

③外部支援についての保護者の承諾

④本校へ電話にて日時予約依頼

⑤派遣依頼書の作成、本校へ送付（依頼書はホームページトップページよりダウンロードできます。）

⑥同書を市教育委員会と教育事務所へ送付（公立）同書を県教育委員会へ送付（県立）

⑦訪問支援実施

⑧教育委員会へ事後報告

研修会報告Ⅰ

かえで合同学習会報告

○日時：2013年8月21日（水）9:30～11:00

○場所：かえで支援学校 交流ホール

○講師：臨床発達心理士 有泉風 先生

○講演テーマ：「障害のある子どもや教室で気になる子どもの理解とその対応」



<内容>

1 発達障害

- ・脳の情報処理の問題。
- ・発達にアンバランスさがあり、得意・不得意の差が大きい。
- 例）自閉症スペクトラム障害（ASD）
注意欠如・多動性障害（AD/HD）
学習障害（LD）

2 自閉症スペクトラム障害

<3つの基本特性>

- 1) **社会性の障害**
・人とかかわり方、状況のとらえ方が独特 等
- 2) **コミュニケーションの障害**
・話し方の独特さ、話し言葉の遅れ 等
- 3) **興味の偏りとパターン化**
・特定の物への強い興味、予定変更が苦手 等

☆障害（特性）は重なり合う＝支援の方法も重なり合う

3 こだわりの理解と対応

- 1) こだわりはなぜ現れる？
→細部へ着目してしまう、見通しをもつことが苦手、イメージが広がりにくい 等。
- 2) **こだわりは気持ちのバロメータ**
→不安定なときは、社会的に異常なこだわり。
安定しているときは、生活に密着したこだわり。
- 3) こだわりへの対応
・「**こだわりをなくそう**」とするアプローチは×。
・変更や新しいことがある時には予告をする。
・生活や趣味につながるこだわりを大切にする。
・こだわらなくてもよい環境調整。

☆認知が発達するとこだわりも発達する。

☆**こだわり保存の法則**（こだわりはなくなり、いろいろなものに発達する）

4 感覚受容の特徴と配慮

- 1) 感覚の過敏性
・触覚過敏：触れる感触、スキンシップ等
・聴覚過敏：大きい音、ざわさわ感等
・味覚 嗅覚過敏：偏食等
- 2) 感覚の鈍感
・痛み、疲れ、光、温度。
- 3) 自己刺激的行動としての感覚受容
- 4) 感覚受容の特徴への配慮
・大原則は、「**慣れさせる、我慢させるはNG!**」
・過敏性が強くなりすぎないための環境調整。
・感覚受容の力を育てるアプローチ。
（ふわっと触るより、一定の圧をかけて触る方がよい。）
・弱い刺激からスモールステップで許容範囲を見つける。

5 コミュニケーション・社会性

- 1) コミュニケーションの力を育てる
・理解する力と表出する力の両面から育てる。
・発達段階に応じたコミュニケーションツールの活用。
・コミュニケーションの土台となるのは、他者との安心できる対人関係。
・伝わったという感覚と伝えることが良い体験になることが大切。
- 2) **自立スキルとソーシャルスキル**
・社会のルールは見える形にする。
・**合意**を覚えてもらう。**納得**して次の行動へ。
・報告、連絡、相談のスキルを身につける。



6 わかりやすい環境づくり

- 1) 整理された環境づくり
・目で見てわかる工夫：予定・手順。
・活動のはじめとおわりはわかりやすく。
・見本を見せる。具体的に伝える。
・新しいことや変更は予告する。
- 2) 注意・集中を向けやすい工夫
・環境の調整：刺激をシンプルに。**見える工夫と見えない工夫**。座席の調整。
・興味をもちやすい活動の工夫。
・待つ時間の配慮。



<まとめ>

- ①支援をつなげていくことが大切。支援者が変わってもライフステージはつながっている。
「今」の変化にとらわれすぎない。
- ②ライフステージを見据えた支援が大切。（幼児期→学齢期→思春期→成人期でそれぞれの支援）



<おわりに>

今回の研修会は、47名の参加者となりました。自分が担当している子どもの姿を思い浮かべながら、何度もうなづく場面がありました。学んだことを実践し、さらによりよい支援を考えていこうと思いました。

このような学びを生かせる研修会を冬にも行う予定です。ぜひ、一緒に楽しく学んでいきましょう！

<相談・支援部 武井>

研修会報告Ⅱ

夏季職員研修会報告

- 日時：2013年8月27日（水）13:00～15:30
 ○場所：かえで支援学校 食堂
 ○講師：横浜国立大学 人間教育学部学校教育課程特別支援教育講座
 教授 渡部 匡隆 先生
 ○講演テーマ：「自己評価を高める」



夏休み中の8月27日に夏季職員研修会が開かれた。講師に横浜国立大学の渡部匡隆先生をお招きし、主に発達障害の児童生徒に対して『自己評価を高める』という内容で講演をしていただいた。

＜講演内容抜粋＞

自己評価というのは、自己認知に対する自分なりの捉え方である。自己認知とは、自分自身への気付きのことをいい、自分の名前や年齢、好きなことから始まり、成長するにつれて自分の性格や夢、生き方についても気付くようになるということ（図1）である。その自己認知に対する自分なりの捉え方として、肯定的、中性的、否定的の3つの代表的な評価があり、これらの中で自分をどう捉えるかは、周囲の人との関係や、本人がどんな価値観をもっているかによって決まってくる。そのため、生き方を含めた自己評価の的確な把握と支援が必要である。

自己評価の歪みをもたらす要因には、客観視の困難さ、相互作用の不調、失敗経験、周囲の態度、自立（律）の困難性などが挙げられる。これらを解消し、自己評価を高めるためには、主体性を育むことが最も重要である。主体性とは、「自分はこうしたい」と意思を表明することや自らの生活を自らがコントロールすることである。その主体性を支えるのは、選択・決定、自己理解、自信・自尊心、協調性・自己調整力の4つの力であり（図2）、それらの力を高めるために支援を行うことが自己評価を高めることに繋がっている。

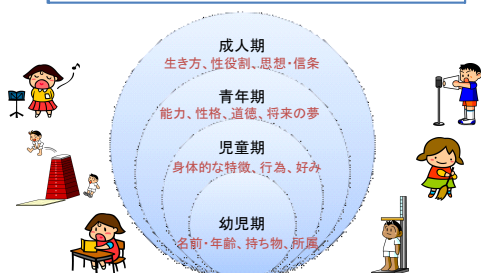
そのために、まずは周囲が子どもの特性を理解しようとしたり、肯定的に接したりすることが必要である。具体的な方法として、目標は本人の実態に合った達成可能なものを設定すること、より素早いフィードバックを行うこと、わかりやすい手がかりを与えること、できるだけ失敗しないような環境づくりをすることが重要である。これらによって、有能感や自己効力感を味わうことができ、自己評価を高めることができる。

主体性を育み、自分らしく意欲的に生きていけるようにするには、周囲の理解と配慮、成功体験をたくさん積ませる、心理教育的な支援が最も大切である。

この研修会では、先生の実践事例を伺うこともでき、児童生徒が自己評価を適切な形で高められるよう毎日の学習や生活の中で生かすことができる支援のヒントをたくさんいただくことができた。

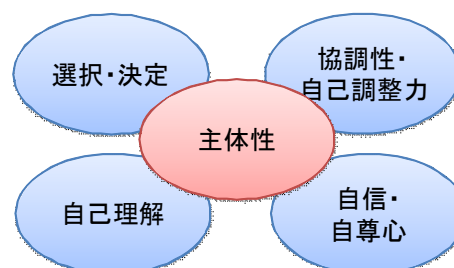
自己認知とは

自分に対する気づき
 ? 自分の経験・特徴・思い・感情について
 ? 幼児期からの生活経験の中で一貫した傾向をもつ



(図1)

主体性を支える4つの力



(図2)

◆Wehmeyer,M.L.(1996) Self-determination as an educational outcome.
 Sands,D.J.et.al(edit.) Self-Determination across the life span. Paul・H・Brookes. Pub.

＜研究部
 平山＞